

# ほおぼる幸せ。富山米



## 推進目標「元気な富山米ブランド」の確立に向けて

- |                   |   |                   |
|-------------------|---|-------------------|
| 1.高品質・良食味な米づくり    | ▶ | ●うるち玄米1等比率 90%以上  |
| 2.低コストな米づくり       | ▶ | ●水稻直播栽培面積 2,000ha |
| 3.「安全・安心」な米づくり    | ▶ | ●出荷米の生産履歴記帳率 100% |
| 4.多様なニーズに対応した米づくり |   |                   |

平成24年1月

# 「高品質・良食味な米づくり」のための重点技術対策

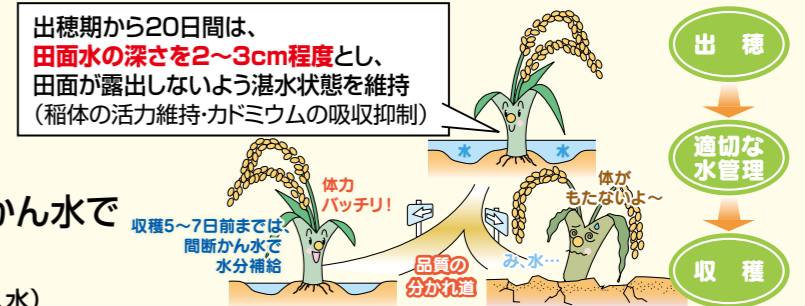
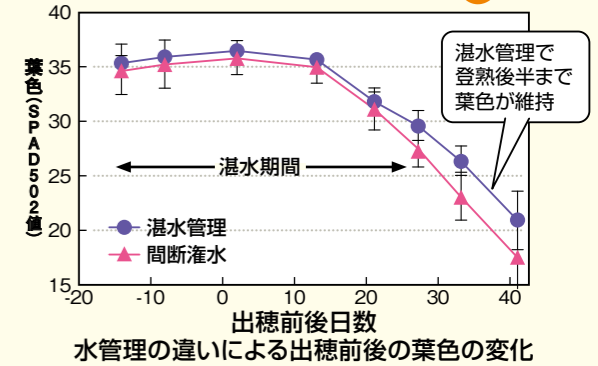
## 1 元気な土づくり

- ① 地力の低いほ場を中心に堆肥等有機物の積極的施用
- ② 珪酸質資材等土づくり資材の施用による不足養分の補給
- ③ 積極的な深耕による作土深15cm以上の確保



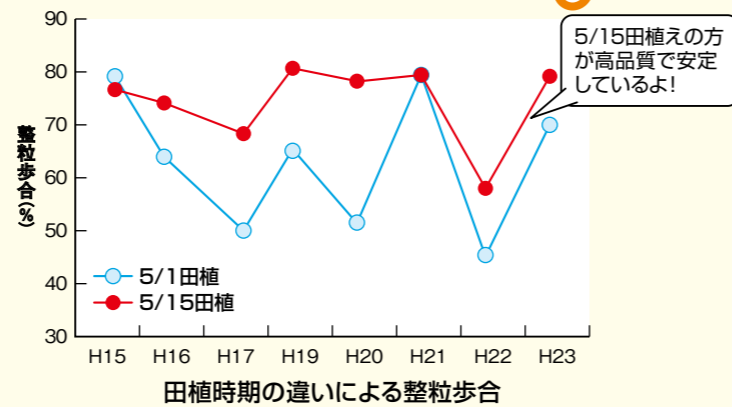
## 4 稲体の活力維持

- ① 気象・土壌・生育に応じた穂肥施用
  - ・2回目は確実に施用し、登熟期間の稲体活力を維持
  - ・穂揃期の葉色を4.2~4.5(砂壤土では4.5)に誘導
  - ・肥効調節型基肥でも、出穂7日前に葉色3.8(砂壤土では4.0)以下の場合は、窒素成分で0.7~1.0kg/10a施用
- ② 登熟期間の適切な水管理
  - ・出穂期から20日間は、**湛水管理を徹底**
  - ・収穫5~7日前までは、**間断かん水**で適切な土壌水分を確保(特にフェーンが予想される場合は事前に入水)



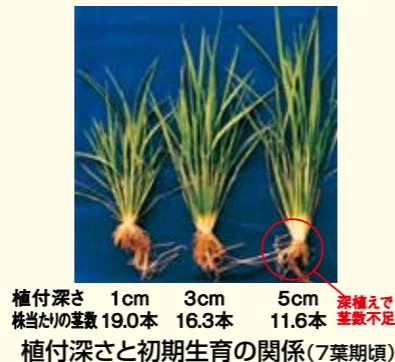
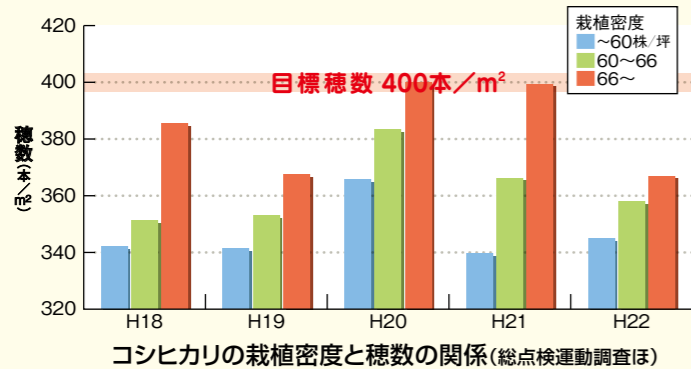
## 2 高温登熟の回避

- ① 5月15日を中心とした田植え(コシヒカリ)を徹底し、高温登熟による品質低下を防止
- ② 田植えに合わせた計画的な浸種・播種・育苗作業で老化苗の植え付け回避
- ③ 直播栽培の拡大



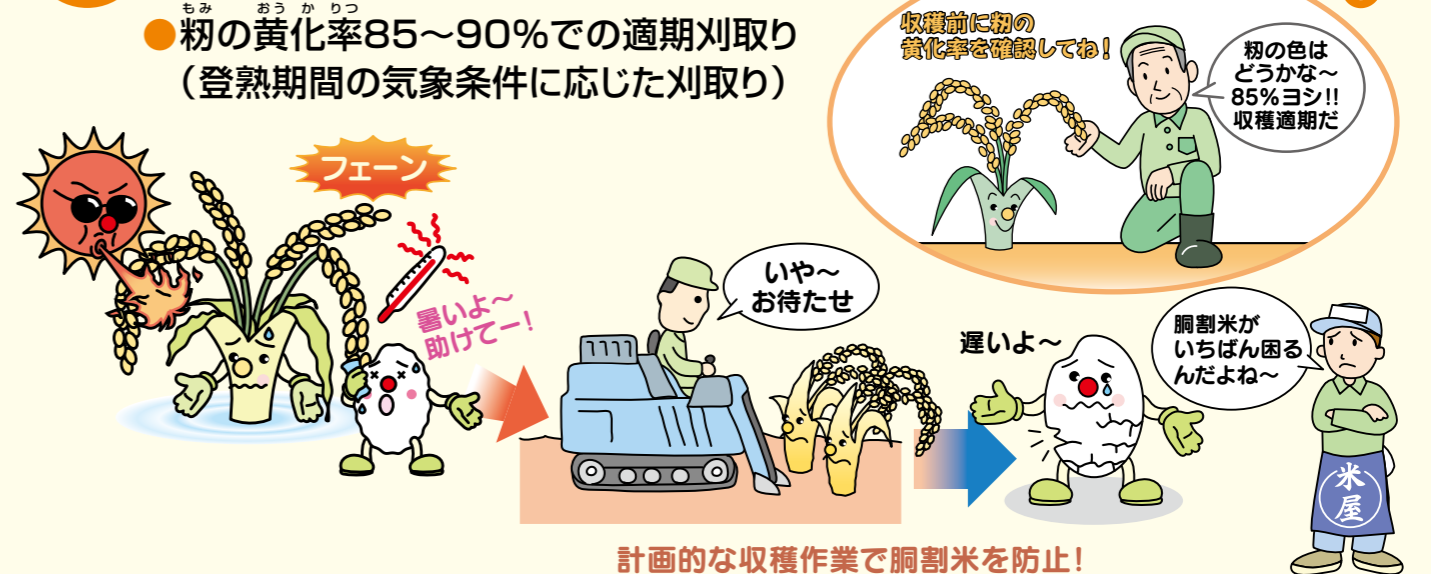
## 3 適正生育量への誘導

- ① 土壌条件に応じた適正な基肥施用
- ② 栽植密度60~70株/3.3m<sup>2</sup>、植付深さ3cmでの確実な植え付けによる適正穂数の確保(特に初期茎数の取れにくいほ場では70株植え)
- ③ 田植え1か月後頃を目安に中干しを実施
- ④ 生育・気象に応じた穂肥施用  
1回目は慎重に施用し、過剰な籾数を防止



## 5 適期刈取りで青米・胴割米の発生防止

- 籾の黄化率85~90%での適期刈取り(登熟期間の気象条件に応じた刈取り)



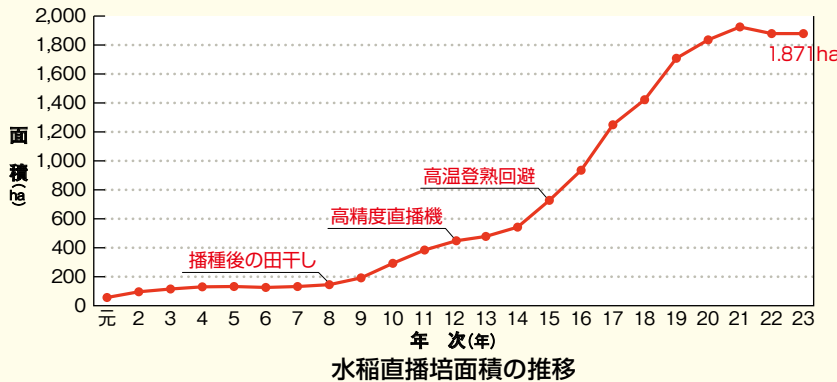
## 6 適切な乾燥調製

- ① ふるい目1.9ミリによる選別の徹底
- ② カントリーエレベータ等の基幹施設利用による高品質・均質化
- ③ 施設や設備の点検・整備による異品種・異物混入の防止

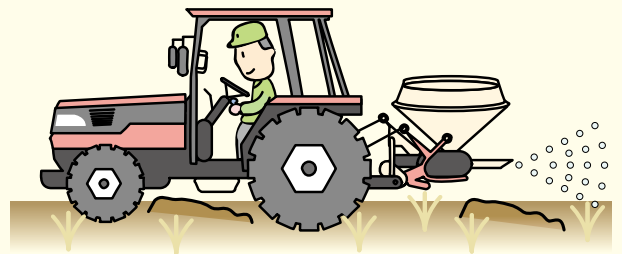
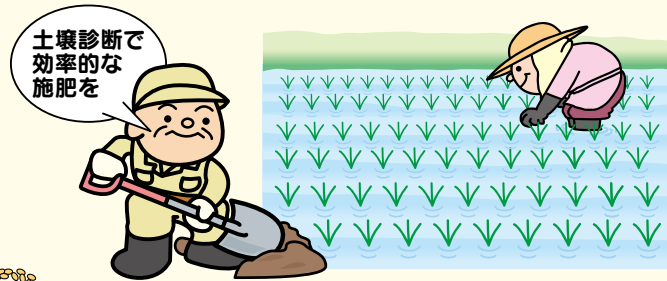


# 低コストな米づくり

- 担い手への土地利用集積等による機械・施設の有効利用
- 直播栽培や品種構成の適正化による省力・低コスト化や作期拡大



- 土壌診断や生育診断等に基づく効率的な施肥



# 品種構成の適正化による富山米の品揃えの充実

## ■ てんたかく

- 気象変動に強く、安定した品質
- 家庭用だけではなく、「弁当」など業務用としても美味しいと高い評価

## ■ てんこもり

- 「コシヒカリ」より成熟期が7日程度遅い晩生品種
- 高温に強く、高品質・良食味(実需者の評価も良好)
- 倒れにくく、直播栽培にも適応
- 機械の効率的利用や収穫作業の分散を図るため、大規模経営体を中心に普及推進



# 安全・安心な米づくり

- 富山米の生産に向け、生産履歴記帳や適正農業管理(GAP)の実践に取り組みましょう。

## GAP[ギャップ (Good Agricultural Practice)]とは

農作物の生産工程において、安全な農作物の生産、環境の保全、農業者の安全確保などの目的達成のため、農業者自らが取組事項を定め、実践・記録・改善していく管理手法のことです。

農業者の皆様は、平成24年4月から、県が策定した「富山県適正農業規範」に基づきGAPの実践に取り組み、より良い農業を目指しましょう。

## GAPチェックシート

項目	実施状況	チェック欄
1	全て	☑
2		☑

## 自ら実践!

ようし来年は  
〇〇を改善するぞ

### <規範項目の例>

- 農薬使用時の使用量・時期・回数等の遵守【規範項目 26】
- 周辺作物等への農薬の飛散防止【規範項目 28・29】
- 生産資材の使用履歴記帳と記録の保管【規範項目 33】

チェック☑がつかなかった項目について自ら改善することや客観的な記録を残す取組が消費者等の信頼につながります。